

○議長（河野） 9番、植田誠司君。

○9番（植田） はい、議長。

○議長（河野） 植田君。

○9番（植田） 9番、植田です。

○9番（植田） おはようございます。

私は、前田町長さんの来期の去就についてお伺いをします。

前田町長におかれましては、「綾川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定により取り組んでいるひとつとして、企業誘致において、千疋地区の工業団地の整備計画、旧綾上中学校跡地への「ハイレゾ社」によるデータセンターの設置、また教育環境、災害時の避難所対策として町内小中学校体育館の空調設備の導入、そして本町の重要課題であります過疎対策として「過疎地域活性化推進事業」による過疎地域での協議会設置、また地域プロジェクトマネージャーの導入など、多くの方面への事業を展開するなど、今期のご活躍に深く敬意を表します。

しかしながら、今後の長期的な視点に立った町政運営の継続性や、現在進められている重要施策の完遂に向けた責任の観点から、町長の次期におけるご決断は、町民にとって大変重く受け止められるものと考えます。来期の去就について、現在どのようなお考えをお持ちでしょうかお伺いいたします。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） 植田誠司議員の私の来期の去就についての質問にお答えをさせていただきます。

平成30年4月に町長という責任ある立場に立たせていただき、町民の皆様の健康と生命、生活を守るため、全身全霊を傾注して町政の運営に取り組んでまいりましたが、早いもので2期目の任期満了の年を迎えております。この8年間、議会をはじめ町民の皆様のご支援、ご協力なくしては今日まで進めることはできず、改めて深くお礼を申し上げます。

この2期目を改めて振り返ってみますと、町の抱える行政課題に対応するため、「綾川町第2次総合振興計画」、第2期の「綾川町人口ビジョン」「綾川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」等を基に、今日まで着実に施策を実施してまいりました。

そのひとつの人口減少対策への取組として、若者の定住施策を進め、人口減少のスピードを減速することができたと思っております。

先ほど議員が述べられました、企業誘致としましては、令和4年に経済産業省が実施した、データセンターの国内最適配置に向けての意見交換を経て、綾川町を地方公共団体のデータセンター立地候補地として千疋地区が公表され、誘致を進めてまいりました。また昨年5月に、綾川町と香川県・高松市・(株)ハイレゾとで「AI開発用GP

U専用データセンター」を開設し事業を行うことについて立地協定を締結し、旧綾上中学校において綾川町データセンターが、来年春までに開所予定であります。また、地元の協力をいただきながら進めております千疋地区での企業誘致、旧西分保育所跡地に整備したサテライトオフィスへの企業誘致など、多様な業種の企業誘致にも取り組んでまいりました。この取組は雇用機会の創出と若者定住の促進となり、地域の持続的な成長を支えるものであります。

教育分野においても、誘致企業のハイレゾ社により昨年度から行っておりますプログラミング教室出張授業は、綾川町の子どもたちのICT教育推進に大いに貢献しております。

令和4年4月に新生綾川中学校が開校し、子どもたちと教職員によって新たな綾川中学校の歴史が築かれておりますが、学力の向上は基よりスポーツ、文化等に数々の実績を上げるなど、子どもたちの学校生活の充実と心身の健やかな成長に大きな役割を果たしております。

これからも、学習意欲をより一層高める学習支援と、安心して学習に取り組める教育環境の整備により、「主体的・対話的で深い学び」が促進され、協働や社会性、思いやりの心が養われる教育を行ってまいります。

また、綾上地区の持続可能なまちづくりを進めるため、過疎地域活性化協議会を設立しました。今年2年目を迎えますが、地域の課題を地域で共有し、解決に向けた取組を進めていただいております。綾上地域での活性化のための地域イベントであるサマーフェスティバル、COPPA あやがわ、かがわ山なみ芸術祭、全国中学生ホッケー選手権大会など開催し、これらレガシーを受け継ぎ継続することで、交流人口、関係人口の増にもつながり、地域の活性化には大きな効果をもたらすものと考えております。これを継続できる体制づくりを今後の課題と捉え、引き続き支援をしてまいります。

そして、綾川町は自然豊かな町であるがゆえに、自然災害が起きたときには町民の命を守り被害を最小限に抑えるための施策が求められます。国土強靱化の更なる推進として、長柄ダム再開発事業につきましては令和5年1月12日に対策協議会と県との間で「長柄ダム再開発事業の施行に伴う損失補償に関する協定書」の調印が行われ、本格的な事業への一歩を踏み出し、現在、起業地の52.1ha、86%が契約済みであり、関連する、町道の付け替え工事、山林保全措置制度による用地取得も99%となる等、順調に進捗しております。本町の防災対策にとって沿川住民の生命、財産を守る上からも、令和14年の完成を目指しておりますが、少しでも早期完成を目指し、事業予算確保のため県と連携をして事業推進をしてまいります。

これからも、将来の町づくりの大きな課題であります「人口減少、少子高齢化」を基本として、「農業振興や企業誘致による商工業の振興」「子育て、高齢者支援」「医療、介護保険等の社会保障制度適正化」「教育の充実」「減災・防災対策」「行財政改革の推進」などの政策を進めることが重要であります。

来年の3月には、綾川町が誕生して20年目を迎え、持続可能な基礎自治体としての

礎を築く重要な時期と考えております。先に述べた喫緊の課題に尽力することはもとより、私自身で手がけた様々な事業を着実に推進し、結実させるとともに、10年後、20年後の綾川町の姿を見据えた新しい施策を推し進めていかなければなりません。

最後になりますが、私が町政の舵取り役を担ってきたこの8年間、綾川町を思う気持ち、町民の皆様が安心して暮らせるまちづくりの思いは、強くなっております。

今後も誰もが住んでよかった、住み続けたい町への取組をより推進し、町の将来像であります「いいまち・いいひと・いい笑顔・住まいるあやがわ」を実現するべく、目標に向け町づくりを進めるものであります。

ご質問へのお答えといたしまして、町政の舵取り役を担わせていただきたく、3期目に再出馬する意思を固めたことを申し述べてお答えとさせていただきます。

- 議長（河野） 再質問はございませんか。
- 9番（植田） ありません。ありがとうございました。
- 議長（河野） はい。
- 議長（河野） 以上で、植田君の一般質問を終わります。